



## 日本湿地学会第 11 回大会報告

### 1. 学術報告会及び特別シンポジウム

2019 年 9 月 7 日（土）～ 8 日（日），習志野市谷津干潟自然観察センターにて日本湿地学会第 11 回大会が開催された。学術報告会では口頭発表 13 題，ポスター発表 11 題の報告があり，大会賞として口頭研究発表から「ラムサール条約登録湿地阿寒湖の保全と温泉との関係性 吉中厚裕・藤原 柊」と「谷津干潟におけるホンビノス貝殻を用いた硫化物除去の検討 出津直弥・小浦節子」が選出され，ポスターセッションから「全周魚眼スマートフォンカメラと画像処理を用いた魚類の遠隔モニタリング 山中登生・山田浩之・藤本泰文」と「VR カメラを用いた湿地景観のアーカイブ化手法の検討 若松拓夢・山田浩之」が会長，研究担当理事，編集担当理事，大会実行委員長からなる選考委員によって選ばれ，表彰された。

また，特別セッション「観察センター 25 年の歩みと谷津干潟の今後について」として 5 題の報告があったほか，エクスカージョン「谷津干潟体験と東京湾を考える」としてホンビノスガイの潮干狩り体験，一般公開特別シンポジウム「東京湾の魅力を知ろう～楽しい未来を考える～」が開催された。

#### ●第 11 回大会プログラム

【一日目：9 月 7 日】

##### ■口頭研究発表

1. 日本でのラムサール条約導入過程におけるワイズユースの位置づけについて  
佐々木美貴（日本国際湿地保全連合）
2. ラムサール条約登録湿地阿寒湖の保全と温泉との関係性  
吉中厚裕（酪農学園大学環境共生学類）・藤原 柊（社会福祉法人厚生協会）
3. 天然記念物の湿原とその保全  
高田雅之（法政大学）・富田啓介（愛知学院大学）・太田貴大（長崎大学）
4. 近接する湧水における水質の違いと人間活動との関係－名古屋市千種区での事例研究－  
野崎健太郎（椙山女学園大学教育学部）
5. 東海地方の湧水湿地を取り巻く社会環境  
富田啓介（愛知学院大学教養部）
6. 「湿地教育」の基本構造について  
笹川孝一（法政大学）
7. 2015 年 12 月に行ったウトナイ湖水位の堰上げ後の湿原群落の回復  
矢部和夫（札幌市立大学）・長塚雄介・中村繁人（北海道胆振総合振興局）
8. 熱帯泥炭地における地目変更と土壤環境について  
甲斐貴光（明治大学黒川農場）・矢崎友嗣・加藤雅彦・登尾浩助（明治大学農学部）
9. 湿地の文化的生態系サービスの危機レベル評価：文化財の遺産価値を事例として  
太田貴大（長崎大学）・高田雅之（法政大学）
10. 【速報】徳富南湿原（仮称）の発見と概要について  
齋藤 央・行方知之（石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク）
11. 成東東金食虫植物群落における微気象・水収支の SHAW モデルによる解析  
田中知樹・矢崎友嗣（明治大学）
12. 谷津干潟におけるホンビノス貝殻を用いた硫化物除去の検討  
出津直弥・小浦節子（千葉工業大学）

### 13. 東京湾内湾の谷津干潟の魚類相

荒尾一樹・馬渡和華・芝原達也（習志野市谷津干潟自然観察センター）・大原庄史（NPO 法人生態教育センター）・風呂田利夫（東邦大学）

#### ■特別セッション「観察センター 25 年の歩みと谷津干潟の今後について」

##### 1. 国指定谷津鳥獣保護区の保全に向けた取り組み

名執芳博（日本国際湿地保全連合）・池田宗平・川口 究・永尾謙太郎（いであ株式会社）・横田寿男・丸之内美恵子・井手正博（環境省関東地方環境事務所）

##### 2. 谷津干潟の環境変化～国指定谷津鳥獣保護区保全事業による調査結果を基に～

池田宗平・川口 究・永尾謙太郎（いであ株式会社）・名執芳博（日本国際湿地保全連合）・横田寿男・丸之内美恵子・井手正博（環境省関東地方環境事務所）

##### 3. 水鳥の採餌環境改善に向けた対策～堆積物除去等による干潟の干出時間・干出面積減少の抑制～

川口 究・池田宗平・永尾謙太郎（いであ株式会社）・名執芳博（日本国際湿地保全連合）・横田寿男・丸之内美恵子・井手正博（環境省関東地方環境事務所）

##### 4. 谷津干潟自然観察センターの取り組みと課題

荒尾一樹（習志野市谷津干潟自然観察センター）

##### 5. 市民協働による保全とワイズユースを目指す谷津干潟自然観察センターの CEPA について

小山文子（習志野市谷津干潟自然観察センター）

#### ■ポスターセッション

##### 1. 谷津干潟ユースが実施している湿地に関わる取り組み

河合千尋・高山美衣子・濱端一苑（谷津干潟ユース）

##### 2. 谷津干潟での市民参加型底生動物調査について

馬渡和華・荒尾一樹・芝原達也・小山文子（習志野市谷津干潟自然観察センター）・大原庄史（NPO 法人生態教育センター）・風呂田利夫（東邦大学）

##### 3. 都立葛西海浜公園なぎさにおける干潟の生物市民調査の取り組みと手法の変化

大原庄史（NPO 法人生態教育センター）・馬渡和華（習志野市谷津干潟自然観察センター）

##### 4. UAV・VR カメラを用いた湿原植生調査の試み

山田浩之（北海道大学）・鈴木 透（酪農学園大学）・中村隆俊（東京農業大学）・若松拓夢（北海道大学）

##### 5. VR カメラを用いた湿地景観のアーカイブ化手法の検討

若松拓夢・山田浩之（北海道大学）

##### 6. 全周魚眼スマートフォンカメラと画像処理を用いた魚類の遠隔モニタリング

山中登生・山田浩之（北海道大学）・藤本泰文（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

##### 7. 遠隔操作カメラと画像処理を用いたマガン自動監視システムの開発

山田浩之・安部晋吾（北海道大学）・牛山克巳（宮島沼水鳥・湿地センター）・嶋田哲郎（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

##### 8. 異なる水位条件で育てたオオミズゴケの鉛直及び水平方向への成長

矢崎友嗣・溝呂木匠太（明治大学）

##### 9. 異なる水位条件で育てたオオミズゴケの表面温度と屋上の気象改善効果

溝呂木匠太・矢崎友嗣（明治大学）

##### 10. 北海道大樹町当縁川河口域に残存する湿原植生（基礎調査）

新庄久尚（北方草地・草原研究所）

11. 水田生物の機能群ごとの個体数に対する景観的な要因の影響

高柳春希（湯沢市ジオパーク推進協議会）

【二日目：9月8日】

■一般公開特別シンポジウム 東京湾の魅力を知ろう～楽しい未来を考える～

基調報告：「ニューヨーク・ニュージャージー港湾・河口域の再生計画から「泳げる東京湾を」考える」 島谷幸宏（九州大学工学研究院）

報告

1. 東京湾とのつながりと谷津干潟の魅力

芝原達也（習志野市谷津干潟自然観察センター）

2. 金沢八景・野島のアマモ場にすむ魚たち

工藤孝浩（海をつくる会）

3. 東京都大田区・大森ふるさとの浜辺に親しむ活動あれこれ

小山文大（大森海苔のふるさと館）

4. 東京湾におけるマコガレイ産卵場の環境について

石井光廣（千葉県水産総合研究センター）

総合討論／司会：風呂田利夫（東邦大学理学部東京湾生態系研究センター）

●大会実行委員

実行委員長 荒尾一樹（習志野市谷津干潟自然観察センター 所長）

副委員長 島谷幸宏（日本湿地学会 会長）

事務局（観察センター） 芝原達也，小山文子，星野七奈，永井祐紀，馬渡和華

事務局（日本湿地学会） 笹川孝一，大畑孝二，田開寛太郎，名執芳博，林 博徳，佐々木美貴

## 2. 2019 年度理事会

第一回目の理事会を 2019 年 6 月 16 日（日）に法政大学にて，第二回目の理事会を 2019 年 9 月 6 日（金）に習志野市谷津干潟自然観察センターにて開催した。

第一回理事会では，まず 2018 年度事業報告案および決算案について協議が行われ，承認された。2019 年度事業計画案および予算案については概ね了承されたが，編集事務人件費等について修正が加わることとなり，継続審議となった。編集委員長より編集委員会報告があり，英文投稿規定・執筆要領，学会誌執筆要領の改正について審議が行われた。英文投稿規定・執筆要領については修正が必要のため継続審議となり，学会誌執筆要領の改正については承認された。大会について，実行委員会の構成やプログラム内容について協議が行われた。会員の管理と会費の督促について，財務担当理事と事務局が協議を行うよう要請がなされた。部会の会計処理の仕組みについて，財務担当理事が検討することとなった。日本湿地学会表彰規程について提案があり，企画担当理事と研究担当理事が詳細を検討することとなった。そのほか，日本湿地学会監修による出版企画，ラムサール COP13 参加，ロゴの利用申請，メーリングリストの活用について，それぞれ担当理事より説明があり，意見交換が行われた。

第二回理事会では，2018 年度事業報告案および 2019 年度事業計画案について，財務担当理事より修正案が提案され，承認された。今後の事業について，学術大会時以外のシンポジウムの定期開催，ラムサール条約の自治体認証に対する取り組み，ロゴマークの活用について提案と意見交換が行われた。学会 HP に部会

用のページを作成することが合意された。学会表彰規程について、議論が行われたが継続審議となり、第11回大会では大会賞を設けることが合意された。電子ジャーナルの活用について編集委員会から提案があり、学会誌の送付を電子ジャーナルに置き換えることによる会則第7条との整合性、また、学会誌の送付を希望しない会員への会費優遇措置などが議論された。この他、第12回大会と第13回大会の開催地と実行体制について、会員の再入会の取り扱いについて議論を行った。

### 3. 2019年度総会

2019年9月7日(土)、習志野市谷津干潟自然観察センターにて総会が開催され、43名の参加があった。なお、委任状の総数は17通、すべて議長に一任であった。

議事の概要は以下の通りである。議長は菊地義勝氏(釧路国際ウェットランドセンター)、記録は佐々木美貴事務局次長が行った。

#### ◇議事1 2018年度事業及び決算、会計監査報告

資料に基づいて林事務局長および田開財務担当理事より説明があり、承認された。

#### ◇議事2 2019年度事業計画及び予算案

資料に基づいて林事務局長および田開財務担当理事より説明があり、承認された。事業計画としては、湿地の保全利用ハンドブック(仮称)の出版準備、部会のページ作成、シンポジウムの開催について説明があった。

#### ◇その他

##### 1) 理事会からの報告事項

國井研究担当理事より理事会で湿地学会表彰規程を検討していることが報告され、今大会では会長から大会賞として表彰することが説明された。

##### 2) 2020年度大会について

2020年度の大会開催地は、ラムサール条約登録湿地の尾瀬がある、福島県檜枝岐村で開催されることが決まった。檜枝岐村の村長である星明彦氏から、次年度大会への抱負と歓迎の意が述べられた。

(湿地学会事務局)